

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

イグサシンムシガの越冬調査結果（技術情報第 1 号）について（送付）

3 月 27 日に八代地域で実施したイグサシンムシガ越冬調査の結果、越冬世代密度は平年並でした。調査結果及び防除対策を下記のとおり取りまとめましたので、指導の参考にして下さい。

記

1 調査結果の概要

越冬世代の発生量	平年並
越冬世代成虫の発蛾最盛日	平年並

- (1) 幼虫及び蛹の発生密度は、2.7 頭/10 m²(平年 2.7 頭/10 m²)と平年並の発生であった。なお、一部に密度の高いほ場も認められることから、ほ場内の発生に注意し、第 1・2 世代幼虫を対象とした防除を実施する(表 2、図 1)。
- (2) 蛹化が確認された越冬世代成虫の発蛾最盛日は、平年(4 月 17 日)とほぼ同じ 4 月 16 日と予測された。(表 1)。

2 防除対策

- (1) 4 月の第 1 世代幼虫の防除を徹底することで、「長イ」を加害する第 2 世代幼虫の発生を抑えることができる。
- (2) 防除適期は、粒剤が発蛾最盛日、液剤及び粉剤が発蛾最盛日から 7 日後である。なお、気温が低くなると羽化がばらつくので、発蛾最盛日から 7 日間隔で 2～3 回の防除を行う。
- (3) 予測される発蛾最盛日は、今後の気温により変動し、地域によるばらつきもあるので、ほ場をよく観察するとともに、予察灯への飛来状況に注意して防除時期を判断する。

※今後のイグサシンムシガに関する情報（積算温度による発蛾最盛日予測、予察灯データ）については、病虫害防除所のホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/kumamoto>) に随時掲載しますので御覧下さい。

表 1 越冬世代の蛹化率および発蛾最盛日

	蛹化率	発蛾最盛日
本年	33.0	4 月 16 日
昨年	18.0	4 月 18 日
平年	18.5	4 月 17 日

注) 発蛾最盛日：50%蛹化率+16.7 日(蛹期間の平均気温が 18℃の場合)
50%蛹化日：(50%－調査日の蛹化率)÷蛹化の増加率+調査日－31 日
蛹化の増加率：5%(1 日平均)

表2 イグサシムシガ越冬調査結果 (調査年月日：平成26年3月27日)

No.	市町村名	地点名	調査株数	被害茎数	幼虫数	蛹数	合計	頭数/10m ²	茎数/株
1	八代市	野崎	100	0	0	0	0	0.0	66.8
2		文政	100	1	0	1	1	2.8	40.4
3		内田	100	2	2	0	2	5.6	65.8
4		有佐	100	0	0	0	0	0.0	66.0
5		平和	100	3	2	2	4	11.2	84.4
6		金剛	100	7	3	0	3	8.4	66.2
7		高田	100	0	0	0	0	0.0	46.2
8		日奈久	100	0	0	0	0	0.0	41.8
9		郡築	100	6	1	0	1	2.8	47.4
10		昭和	100	0	0	0	0	0.0	54.2
11		北新地	100	3	2	0	2	5.6	80.6
12		松高	100	2	1	0	1	2.8	76.4
13		吉王丸	100	2	1	0	1	2.8	67.8
14		太田郷	100	0	0	0	0	0.0	38.4
15		西牟田	100	0	0	0	0	0.0	59.2
16		新牟田	100	1	1	0	1	2.8	49.2
17	氷川町 (旧竜北町)	若洲	100	0	0	0	0	0.0	72.2
18		鹿野	100	6	2	1	3	8.4	48.6
19		島地	100	2	0	0	0	0.0	47.8
20		反甫	100	4	0	0	0	0.0	61.6
計			2000	39	15	4	19	2.7	59.1

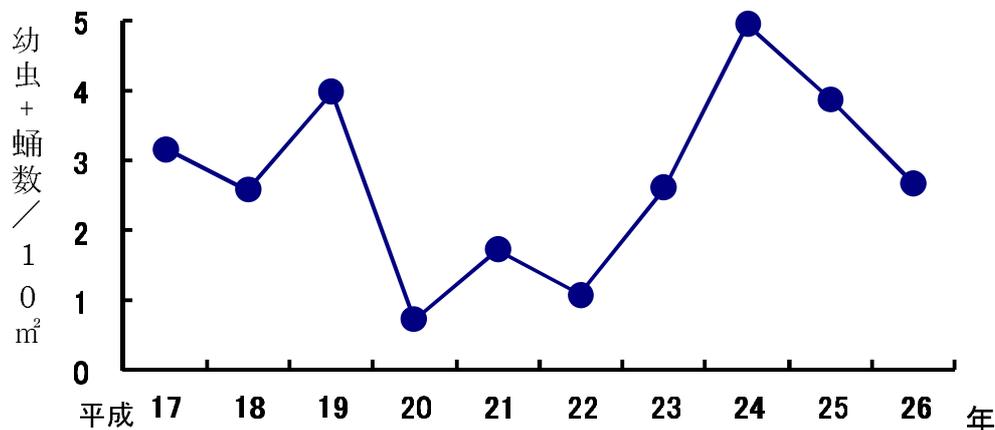


図1 イグサシムシガの越冬世代幼虫・蛹密度の年次推移

問い合わせ先 熊本県病害虫防除所
(生産環境研究所)
担当：清永
TEL:096-248-6490